

# 教園の經營について

秦 隆 眞

日曜學校がサンデースクールの翻譯時代は過ぎた、又子供會やおはなし會では満足できなくなつた、こゝに兒童の宗教々育のよき教場としての日曜教園がのぞましい、それは何處で經營するか云へば勿論お寺で答へたい、又一寺院一事業云ふ稱揚の趣旨から云つても現在の寺院に日曜教園、青年會等が經營されなければならない、又宗教々育、社會教化の大任は宗教家に與へられたる義務である。

何れの點からするも寺院で僧侶が日曜教園を開かなければならないが如何にして經營すべきや、それには大いに研究の餘地があり幾多の問題がある。

一、檀家が寺の周圍にあつて教園へ來る子供達が皆檀家の子供である場合（農村寺院）檀家が遠方に散在して、教園の生徒が近隣の兒童である場合（都會寺院）こがあるが、教園の對象たる兒童は檀家であるこ否こを問はず勿論近隣の兒童である。

二、經費の負擔は誰がするか寺院の維持は檀家がするのであるが、事業經營の經費―事業費、事務費、營繕費、雜費―は經營者（住職）と利用者即ち子供達の保護者である、その他補助金、寄附金及後援會の贈金等によらなければならない。

三、子供を集めるのは土曜の午後か日曜であるが、やはり日曜の午前がよい、學童の校外教育、學童の日曜日、いろいろの點からして適當である、この時間だけは住職は、寺の他用は繰更へるべきである。

四、寺の座敷調度、庭等が痛む、荒される、汚れる、この心配がある、子供を集めたら否人を集めたら當然である、しかし指導者があり、その人の注意によつて、又教へるこゝによつて、その心配は半減されるものと思ふ。

五、教園児の年齢年級の差を組別として設備を考へなければならぬ。しかし現在の寺院にはその設備がない、運動場もない、しかし、時間割の編制と工夫によつて適當に利用すべきである。

六、日曜教園の教案、教材がない、是は誰でもが困つてゐる所である、児童協會が新教案を樹立し教材の編纂をしてくれることを切望するが、それまでは宗務所本山及び先輩の發行せられたる數篇を適用實施するがよい。

七、教園の教師は誰がするか、住職は經營者であり園長である、この住職を中心に寺庭の人々、小學校の先生、檀信徒、男女青年會員、婦人會員等の有志の奉仕にまつべきである。

八、教園の附帶事業として、又教園の姉妹團體として少年團、自習會、文庫、クラブ、園友會、青年會等へ事業の延長を擴大を常に考慮し提携せなければ教園の目的は達成されない。

以上教園經營について私見の要點を述べたに過ぎないが、今後先輩の御指導を得てその一々について研究を続けたいと思ふ。

インターネット公開許諾のない文章には墨消し処理を施しています。